

2023年4月20日 発売予定

# 北井一夫写真集 『ドイツ表現派紀行』

1979年と1980年に撮影した欧州への旅  
未発表作を含む、モノクロ作品80点を掲載

ドイツ表現派は1920年代の10年間だけ活発になったドイツ固有の総合芸術運動で、この時代フランスはアールヌーボー、日本では大正ロマンと、世界各国がそれぞれに芸術を謳歌した。ドイツ表現派はそれまでの建築様式と違って権力を誇示するような装飾はなく、バウハウスの合理主義的機能美もない。一見矛盾に満ちた建築でありながら、建築が何かの形象を模倣した面白さがある。オランダ・アムステルダム、ドイツ・ケルン、ハンブルク、東ベルリン、西ベルリン、チェコ・プラハなど、表現派建築やその街の写真を撮りながら歩いた4か月の道程。撮影から40年という時を経て、未発表作品を多く含む写真集として刊行する。

「ドイツ表現派はそれまでの建築様式と違って権力を誇示するような装飾はなく、バウハウスの合理主義的機能美もない。一見矛盾に満ちた建築でありながら、建築が何かの形象を模倣した面白さがある」 — 北井一夫

※合同会社PCT(ピクト)は、元・日本カメラ社のメンバーが2021年に創業した新会社

定価：4,000円+税

88頁／200×200mm／モノクロ／ハードカバー  
ISBN978-4-910646-02-2 C0072



●作者プロフィール 北井一夫(きたい・かずお) 1944年、中国鞍山に生まれる。1965年、日本大学芸術学部写真学科中退。同年、『抵抗』(未来社)を自費出版。1969年、成田空港建設に反対する三里塚の農民を取材し、1972年、写真集『三里塚』(のら社)にて日本写真協会新人賞受賞。1976年、『アサヒカメラ』誌に連載したシリーズ「村へ」にて第1回木村伊兵衛写真賞受賞。主な展覧会に「タイムトンネルシリーズ Vol.20 北井一夫〈時代と写真のカタチ〉」(2004年・ガーディアン・ガーデン)、「いつか見た風景」(2012年・東京都写真美術館)など。主な写真集に『村へ』(1980年・淡交社)、『新世界物語』(1981年・長征社)、『フナバシストーリー』(1989年・六興出版)、『いつか見た風景』(1990年・蒼穹舎)、『1970年代NIPPON』(2001年・冬青社)、『流れ雲旅』(2016年・ワイズ出版)、『過激派の時代』(2020年・平凡社)、『COLOR いつか見た風景』(2021年・PCT)など。エッセイ集に『写真家の記憶の抽斗』(2017年・日本カメラ社)がある。

▶ご注文はツバメ出版流通まで FAX: 03-3721-1922

mail:info@tsubamebook.com

TEL:03-6715-6121 http://tsubamebook.com

貴店名(番線印)  ご担当: 様	PCT 新刊		info@photoandculture-tokyo.com 返品条件付注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通:川人
	注文数	『ドイツ表現派紀行』 北井一夫 ISBN978-4-910646-02-2 C0072 定価：4,000円+税	